

食品に関するリスクコミュニケーション

～輸入食品の安全性確保に関する意見交換会～

「消費者から見た輸入食品」

生活協同組合 ユーコープ

参加と連携推進本部 安藤 弥生

ユーコープについて

ユーコープは神奈川・静岡・山梨県内で
約180万人の方が加入し、
利用している生活協同組合です。

実利用は約113万人
供給高 約1800億円

2013年3月21日にコープかながわ・コープしずおか・市民生協やまなしは組織合同をして、ひとつの生協「ユーコープ」になりました。

ユーコープは商品やサービスを通じて、誰もが安心して笑顔で暮らせる地域づくりに貢献してまいります。また組合員の皆さんとともに、食べ物の安心はもとより、平和、環境、福祉、子育てなど、楽しく豊かに暮らすためのさまざまなテーマに取り組んでいきます。



お話しすること

- (1) 輸入食品に関する組合員からの意見・質問
- (2) その質問への回答(ユーコープの考え方)

① 組合員から寄せられた声(分類別)

2013年度(2013.3.21~2014.3.20)

実利用は約113万人

	分類	件数
声全体		955,027
	商品	124,713 (13.1%)
	職員への対応、待遇	3,981
	組合員活動・生協運営	2,095
	他	824,238

② 組合員から寄せられた声(窓口別)

2013年度(2013.3.21~2014.3.20)

実利用は約113万人

窓口	件数
声全体	955,027
宅配事業サービスセンター	913,797
もしもしコープ(問合せダイヤル)	10,218
お申し出報告書	7,248
他	23,764

③「もしもしコープ」の窓口で寄せられた声 2013年度

実利用は約113万人

	分類	件数
声全体		10,218
	商品	4,949 (48.4%)
	職員の応対、接遇	370
	組合員活動・生協運営	89
	他	4,810

③もしもしコープ(問い合わせダイヤル) 商品への声 2013年度

実利用は約113万人

	分類	件数
商品		4,949
	輸入食品計 実利用者中の0.05%	558
	中国	194
	韓国	25
	他の外国産・輸入品一般	339
	輸入食品以外の商品関係	4,391

輸入食品に対する特徴的な意見・問い合わせ・質問

(2012.12～2014.12)

a.原料産地・加工地問い合わせ(加工品全般)	輸入食品全般、特に中国
b.原料産地表示希望(主に店内総菜)	特に中国
c.安全性確認方法・検査(全般)	輸入食品全般、特に中国
ハザード不特定、アフラトキシン、放射性物質	中国、米国(西海岸)
d.報道等での不安、国産への切り替え希望	特に中国、韓国
鳥インフルエンザ、PM2.5	特に中国
柑橘類、ブルーベリーなどの残留農薬、防かび剤	特に米国
バナナの燻蒸	フィリピン、台湾他
ホルモン剤、抗生物質の安全性(使用有無)	特に北米、オーストラリア
輸入飼料の安全性(特にGMO有無)	不特定
食品添加物(無水マレイン加工でんぷん)	台湾
e.中国産商品を取り扱う理由、コープの考え	輸入食品全般、特に中国

事例a.【原料産地・加工地問い合わせ】(2014/11/27)

①おせちというのは、だいたい原料に中国産を使っていますか？ 子どもがいるので、中国産の原料が入ったおせちは食べさせたくないのです。

中国

商品名を教えていただければ、原材料の産地を分かる範囲でお調べいたします。

事例a.【原料産地・加工地問い合わせ】(2014/11/27)

②「中華甘酢あん」(宅配)は中国で作っているのですか？

中国

国内の工場で製造しています。

事例b.【原料産地表示希望】(2014/6/25)

①総菜の原材料の産地を表示してください。

店で、総菜の原材料の産地が表示されていなかったため、お店の人に問い合わせたら、とんかつの豚肉は中国産、鶏唐揚げの鶏肉は中国又はブラジル産と回答があった。中国産と聞いてびっくりした。安全だと言われても中国産のものは食べたくない。だから、総菜の原材料の産地を表示して欲しいです。

中国

商品名を教えていただければ、原材料の産地を分かる範囲でお調べいたします。

事例b.【原料産地表示希望】(2012/12/6)

②中国産の商品はお年寄りが解りやすいように表面に大きく“中国産”と明記して戴きたいと思っております。制度では量目のところに明記すれば良いと思っておりますが、お年寄り等は量目と同じでは小さくて文字は見えません。

中国

食品によって表示義務が違いますので答えにくいのですが、生鮮食品は原産地表示が義務付けられております。加工食品は生鮮品に近い加工食品で指定された商品についてのみ原料の原産地を表示しております。ご指摘の表面標記と文字の大きさについては、ご意見として承ります

事例c.【安全性の確認・検査方法】(2014/1/8)

①最近マスコミで言われている中国産ピーナッツに天然のカビ毒素アフラトキシンについて不安である。コープでの商品の安全性を知りたい。

中国

アフラトキシン

ピーナッツ

アフラトキシンの検査(合計3回・ロット毎(1コンテナ14t単位)で実施)

●中国製造工場 ●中国CIQ(検疫) ●日本輸入通関時(検疫)

中国産のピーナッツについては、主に2通りの流通方法があります。

- ①殻付の落花生を輸入⇒国内で皮むき後、フライ・味付けなどの加工を行うもの
- ②中国国内で落花生を皮むき、(フライ・味付)⇒加工されたピーナッツとして輸入後、メーカーで包装加工するもの。

土壌のアフラトキシンが落花生に移染するのは殻～皮までがほとんどです。皮を剥いたものではその9割以上が消失するとされております。

お問い合わせの商品は、②で既に殻、皮を剥いてある状態で輸入される為、アフラトキシンの検出事例はほとんどありません。

コープ商品(輸入食品)は、原材料の安全性の確保や輸入記録・出荷記録などの品質管理で安心して商品をご利用いただくための取り組みを進めています。

事例d.【報道等での不安】(2014/8/13)

中国で製造した商品は日本で製造した商品を検査するつもりで「定期的」にやっても何ら意味が無い。その時だけ対策を講じているので居なくなった途端、報道のような扱いをしますと思う。そうは思わないですか？そう思わないなら危機感が全くない。こういう扱いをする人の集団が商品を製造しているのだという危機感が足りない。中国で製造をし続けるのなら「定期的」な検査ではなく、常駐体制を取るなど、抜本的に検査体制を変えなければ安心して利用できない。少なくともコープとして安全なら安全、取り扱っていないのであればその旨、きちんと組合員に告知をしてほしい。

中国

他社扱いの食肉加工品報道関連

中国国内で製造しているコープ商品は安全確保のため、中国への職員常駐による情勢把握と分析の強化、全製造日対象の農薬検査の強化、日本国内物流センターでの点検強化を行っています。また中国製造品での全製造日生産立会いや品質保証部工場点検担当者による中国工場の点検を継続して実施しています。今後についても、中国製造商品の管理については中国情勢、特に製造工場状況、周辺環境、労務等に十分留意しながら、必要に応じ、柔軟な対応をとれるようにしていきます。

事例d.【報道等での不安】(2014/4/18)

② 4月に出た週刊文春で、アメリカ産牛肉で使われている女性ホルモンのせいで、日本人の女性の乳がんと子宮がんが輸入量の増加に比例して増えていると書いてあった。またヨーロッパ(EU)では使用禁止になっているが、日本では認められていて、そのため輸入量が増えていて、アメリカの圧力で禁止にできないとも書いてあった。ほんとうにそうなのですか。コープで売っているアメリカ産とオーストラリア産の牛肉にも使用されているのですか、安全性に問題はないのですか

ホルモン剤

ヨーロッパでは使用禁止になっているのは事実です。

日本でも決められた使用範囲であれば、食品衛生法上の問題はありません。価格が安いために、牛肉の輸入量が増えています。アメリカの圧力のことはわかりませんが、多くの国際機関の安全性の評価において、畜産食品中に含まれる量では、食品摂取による危険性はほとんどないとされています。コープではリスクと効果・利点を勘案した結果、適切な投与と残留実態の検証の上での使用においては、組合員の利益の方が大きいと判断しています。よってコープではアメリカ産牛肉、オーストラリア産牛肉を取り扱っています。

事例e.【商品取り扱いについての考え方】(2013/3/26)

中国産商品の取り扱いについて。

コープなのに中国産を取り扱う理由を明確に教えていただきたい。

輸入食品

コープは、ふだんの暮らしに必要な商品の品揃えを行うために、国産食品と輸入食品を適切に組み合わせて取扱いを行います。

輸入食品に対する不安が高まるとともに、低い食料自給率を背景に日本の食のあり方を問い直す動きが強まりました。一方では、今日の食生活は輸入食品なくしては成り立ちません。日本で生産できないものや、生産量の少ないものがあり、量の確保や暮らしを守る価格での商品提供には必要です。また、国産が不作の時など、緊急に調達が必要な場合があります。

しかし、輸入食品の利用が多い分野であっても、商品選択ができることを重視し、国産食品の利用を広げる視点で品揃えをすすめます。

輸入食品に対するユーコープの取り組み

(1) 商品の取り扱い判断

コープでは日本と世界の食料生産と消費をめぐる状況をふまえ、組合員のふだんのくらしに必要と判断した商品は、基準に沿って必要な点検を行い、安全性を確認しつつ国産品と輸入品を適切に組み合わせ商品を取り扱います。

(2) 輸入食品、国産食品に関係なく、提供する全ての食品に対して安全性確保に取り組めます。コープ商品では生産立会いや工場点検、商品検査、商品管理などにより品質管理を強化しています。

(3) 情報提供

輸入食品について正確な情報提供を行い、正しい理解を広げ、組合員の選択・学習に役立つ情報提供をすすめます。

- ① 国内外における安全性確保の取り組みなどの情報提供を行います。
- ② 輸入食品の流れや生産状況等の情報提供を行います。

(4) 産地の生産状況(資源の管理や生産方法、生産に携わる人のくらしや仕組み)を把握し、環境保全活動や、人権保護への取り組みなどの可能性を考慮します。

2013.7～9 組合員アンケート 「食の安全で気になることは何ですか？」

- ・総回答数 1,244(神奈川66.6%、静岡22.0%、山梨11.2%、他0.2%)
- ・年代 ~30(5.1%)、30代(22.4%)、40代(27.4%)、50代(15.8%)、60代～(29.3%)

● 食品安全について国や行政の基準(法律など)があることを知っている
はい(90.4%)、いいえ(9.8%)

● 国や行政の基準があることで、食品の安全についての安心感はあるか
安心できる(8.6%)、**ほぼ安心(52.9%)**、**あまり安心できない(35.1%)**、安心できない(3.4%)

● 食の安全に関して特に気になること3つ

- ①放射能713件(魚や海洋汚染が心配)
 - ②原料原産地581件(中国からの輸入品が気になる、TPPで安全基準は守られるのか)
 - ③食品添加物560件(TPP参加で国の基準が甘くなる)
 - ④農薬547件(TPPの影響がこわい、中国からの野菜が気になる)
 - ⑤食品衛生管理332件(中国・アジアからの輸入品は衛生管理大丈夫か?)
 - ⑥遺伝子組換え食品307件(TPP導入により表示がなくなる不安)
 - ⑦汚染物質228件(黄砂とか、PM2.5がこわい)
 - ⑧微生物190件(一番身近な問題であると思う)
 - ⑨BSE156件(米国産は怖くて買えない、輸入基準が緩和されているようで心配)
 - ⑩アレルギー物質144件(表示は確かか? 記載漏れがないか心配)
- その他(国の基準があることは知っているが、本当に信じられるの? 他)

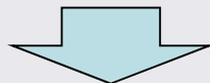
但し、アンケートには

「国産にこだわっていたら、食べるものがなくなってしまう」

「日本のお米にはカドミウムが含まれ、基準もゆるいと週刊誌にあった」

「復興支援の為に購入したいと思うが、つつい福島・茨城は避ける」

という意見も。



●リスクコミュニケーションのための学習会を開催

例えば

2013.11.18「食の安全について考える」～普段のくらしからみる、今必要な食品安全
(講師 NPO法人食品保健化学情報交流協議会理事長 関澤 純 氏)

●機関誌mioで、食の安全に関する情報を掲載

●もしもしコープなど問合せ窓口で質問への対応……など

→ しかし依然、組合員の不安はある。

「消費者から見た輸入食品」は、
根深い不信感で、きっかけがあれば簡単に排斥要望に傾きがち

- ・「安全性の情報は理解する、けれど、**感情では嫌**」
 - **安心を感じるためには**、個別の安全性確保に関するコミュニケーションは必要（今回のような意見交換会）。
けれど、十分条件ではない。
 - 日常丁寧な安全管理やコミュニケーションを行っていても、報道、インターネットで情報が飛び込むと一気に不信感へ。
安心感を醸成することは個別の事業者では限界がある。
 - 食は命をつなぐもの。日本と生産国における努力のプロセスを正確に丁寧に伝える情報は国が出し続けないと。
マスコミにも正確・丁寧な情報発信をお願いしたい。

ご清聴ありがとうございました